

経済為替ニュース

SUMITOMO MITSUI TRUST BANK, LIMITED FX NEWS

第2489号 2020年01月14日(火曜日)

《 US removes China from currency manipulator list 》

海外で既に始まっている今週のマーケットで最初の大ニュースは、「アメリカが為替操作国のリストから中国を外す」という情報でした。この情報がマーケットを動かしたのはメディア報道の段階ですが、その後アメリカの財務省が正式発表した。メディア情報が出た段階で、第1段階の合意にもかかわらず米中関係の先行きを依然として心配していたマーケットでも先行き楽観論が広がり、それが株価を押し上げた。この結果 S&P500 と Nasdaq は小幅ながら史上最高値を更新して引けた。

筆者が最初にこのニュースに気付いたのは日本時間午前1時過ぎのCNBCのサイトですが、その後ウォール・ストリート・ジャーナルのサイトも追随していた。そして米財務省の正式発表となった。財務省は「貿易合意の中で中国が為替に関して操作はしないと確約し、透明性の確保も約束したため」と説明した。しかし日本やドイツ、それにイタリアなども入っている監視リスト (a monitoring list) には中国を残している。「今後も監視を続けますよ」という意思表示。

米中貿易に関する第1段階の合意署名式を2日後に控えての指定解除で、「米中の関係は覇権争いを別にすれば、貿易に関しては予想されていたより良いのかも知れない」という見方に繋がった。この米中に関わる緊張緩和に加えて、中東情勢の緊張緩和もマーケットを支えた。二つの緊張緩和の中でドル・円は110円に接近する109円台後半になった。この原稿を書いている時点では109円95銭程度。

米中間ではカナダで拘束中のファーウェイ副会長をアメリカに引き渡すかどうかの裁判が20日に開始される予定であること、第1段階の合意内容の詳細が発表されていないこと、それに第2段階の交渉開始時期や内容に関してなど、まだいくつものハードルがある。しかし「為替操作国の指定解除」はマーケットがあまり予想していなかった動きだった。

年初からそろそろ半月になるが、この間にマーケットは大きな波乱を経験した。一番の背景はアメリカによるイランのソレイマニ将軍のドローン攻撃による暗殺。これによってアメリカとイランとの関係は一気に緊迫。しかしその後の展開も劇的だ。「双方とも戦争は望まず」という事情が明らかになったのは予想通りだが、今は二つの当事国がともにこの暗殺劇に関連するトラブルに直面している。

イランは「革命防衛隊が人的ミスでテヘラン空港を飛び立った民間航空機を誤ってミサイルで撃墜(176人が死亡)」というとんでもない過ちを犯した。最初それを否定するウソの

発表を繰り返した。しかしその後は一転して認めるという大失態。その結果、イラン国内で体制批判が高まり、テヘランなどでは連日反政府デモが行われている。一方のアメリカでは、ソレイマニ司令官暗殺の大統領の判断に疑念が吹き出し、政権も揺れている状態。この結果、双方が今は直ぐには動けない事情になっている。つまり奇妙な安定で、それをマーケットは好感。

しかし、むしろ中東の危機は分散したとも言える状況であることは想起しておく必要がある。なぜなら、中東各地に散っている親イラン勢力（シーア派武装勢力）は、イランの対外軍事行動を統括していたソレイマニ将軍を失ったこと、それに国内のデモで批判に直面するイラン指導部の統率力の低下から、それぞれ勝手な反米行動に出る可能性がある。それに対応してアメリカ軍が動けば、情勢は一気に高いレベルの緊張に発展する。

- - - - -

ドル・円の 110 円は久しぶりな印象がするが、考えてみればかねてから指摘している 105 円～115 円のレンジの真ん中だ。110 円台に乗ったとしても「バンドを外れるだけのパワーがマーケットにある」との見方は出来ないと思う。115 円が近づけばドルを売りたい企業は数多くあるだろうし、107 円台さえも一時的な円高（直近の中東情勢緊迫時）で終わったことから、105 円に近づけばドルを買いたい向きも多いだろう。

週明け月曜日の海外マーケットでもう一つ為替に関する話題があったとしたら、それはポンドだった。王室の混乱が背景ではなく、イングランド銀行の利下げに関する観測がその背景。今月末にはイギリスは EU から離脱し移行期間に入る。ポンドを巡る情勢は今後も大きく変わる可能性がある。

《 China Auto Sales Slid 8.2% Last Year 》

第 1 段階の署名式はワシントンで 15 日に行われる。トランプ大統領が中国・劉鶴副首相率いる中国代表団を迎える形になる。為替操作国からの中国除外が正式発表されたため、環境は整った。もっとも習近平主席自らがアメリカに来ないのは、トランプ大統領としては不満だろう。中国側の落とし処として、「習近平は行かないが署名の場所はワシントン」という選択だった可能性が高い。

今回の米財務省の発表に関しては、「操作国指定・除外は、完全に政治的思惑で決まるのか」という印象は残るが、中国としては歓迎だろう。問題はテクノロジー覇権がからんだファーウェイ副会長の今後がどうなるのか。これはカナダの裁判所が決める問題だが、依然として米中間の課題は多い。何よりも第 2 段階以降に関しては、中国は全く交渉に乗る気配を示していない。

中国経済は去年の新車販売が 8.2%の減少になったとウォール・ストリート・ジャーナルが報じている。2 年連続の減少。加えて「今年も減少するのではないか」との見方がある中で、中国の景気の先行きはかなり厳しい。それは米中の第 1 段階の貿易合意でも変わらない。成長率が 6%を割り込むとの見方も強い。

一方のアメリカは株価の動きを見ても、また失業率が 3.5%にとどまっている事を見ても好調なまま。この環境がどう動くかが今週からの見所だ。

今週の主な予定は以下の通り。

- | | |
|-------------------|--|
| 0 1 月 1 4 日 (火曜日) | 11 月国際収支
12 月景気ウォッチャー調査
米 12 月消費者物価 |
| 0 1 月 1 5 日 (水曜日) | 12 月マネーストック
12 月工作機械受注
5 年国債入札
日銀支店長会議で黒田日銀総裁あいさつ
地域経済報告(さくらレポート)
自動運転 EXPO(東京ビッグサイト、~17 日)
米 12 月生産者物価=22 時 30 分
米 1 月 NY 連銀製造業景気指数=22 時 30 分
ベージュブック |
| 0 1 月 1 6 日 (木曜日) | 11 月機械受注
12 月国内企業物価指数
米 12 月輸出入物価
米 12 月小売売上高
米 1 月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
米 11 月企業在庫
米 1 月 NAHB 住宅市場指数
米 11 月対米証券投資 |
| 0 1 月 1 7 日 (金曜日) | 11 月第 3 次産業活動指数
20 年国債入札
韓国中銀政策金利発表
米 12 月住宅着工件数
米 12 月建設許可件数
米 12 月鋁工業生産・設備稼働率
米 1 月ミシガン大学消費者マインド指数 |

《 have a nice week 》

3 連休はいかがでしたか。年末・年始に引き続き、都内の道路では県外車ナンバーの車を数多く見掛けました。また月曜日は着物姿の女性を数多く目にしました。日本の本当の年明けは長めの休みが続いた 1 月前半ではなく、今日からのような印象もします。中国の武漢

を中心に新型コロナウイルスによる肺炎が発生。中国以外にも飛び火していますが、体調には気を付けましょう。

私は3連休の最初の土曜日には千駄ヶ谷の新しい国立競技場に行き、ラグビーの大学選手権の決勝（早稲田 対 明治）を見ました。試合は予想を覆して早稲田の勝利。前半の31得点が大きかった。明治は前半は得点ゼロでしたから。後半の明治の追い上げはさすがでしたが、早稲田は後半もやられっぱなしではなく、きちんとトライを取っていた。これが最終的な勝利に繋がったと思う。

試合も面白かったが、いつも外から見ていた新しい国立競技場にも強い関心があり、早めに行って球場内を一周したり上下横をまじまじと眺めたり、座席の配置具合などを観察していました。総勢5人で行ったのですが、それぞれが感想を漏らして面白かった。私の印象を記すと、良い点は

1. やはり木（板）を天井にも使っていて斬新な印象がするし、競技場の外周を埋める植栽（各階の外周に植えられている）が球場外の木々とマッチしていて良い
2. 観客席の傾斜が急になっている分、恐らく場内のどの席からも競技がよく観察できる
3. 各階に入っている店舗も多様（好きな“シウマイ弁当”も買えた）で、様々な買い物ができる
4. 競技場を取り囲む環境も広々としていて良い。植栽が進めばもっと良くなる

などでしょうか。私たちは3階席（自由席）の345～346の入り口から入った直ぐ左の席を占めましたが、ゴールに近く、かつ全体が非常に良く見渡せて「（目線の低い）指定席より全体が良く見えるのでは」とも話していました。確か観客は5万7543人との発表だったような気がした。まだ一部に席が設置されていない部分があったのその人数なので、「確かに6万人が入るかも知れない」と思いました。

但しいくつか「ここはちょっと」という部分もあった。それは

1. 階数表示が複雑で、「3階席」は実は競技場の作りとしては4階にあって戸惑った。もっとうまく表示できないか
2. 席と席の間、特に前後が非常に狭い。大柄の外国人が出入りするには苦勞すると思うし、不便な作りになっている。通路も少ない
3. 座席が小さく、冬は寒いと感ぜられる
4. 競技場側も観客もまだ慣れていないのか、人の動線が混乱しやすい作りになっている

などでしょうか。まだ工事中の部分もあり、改善の余地はあるし、トライアルで使っているのですが、ちょっと本番でも問題かなという印象が残った。「3」の「席が狭く、冷たい」というのは事前に情報が入っていたので、他のメンバーは毛布を、私は車用に買っていた小さい座布団をいくつか持って行った。これはとても役立った。私は座布団を座席に使ったが、他のメンバーは背もたれに使って「良かった」との印象を述べていた。

大きな大会で新国立競技場が使われたのは2回目でしょうか。改善の余地ありかな。もっともオリンピックの準備は急速に進んでいる印象がしました。またあの競技場は、夏は夏の特徴があるのだと思う。冬とは違った。夏は「座席が冷たい」というのはなくなり、競技場全体もまた違った印象がするかも知れない。でも早めに競技場を体験できたのは良かった。それでは皆様には良い週の残りを。

《当「ニュース」は三井住友トラスト基礎研究所主席研究員の伊藤(E-mail ycaster@gol.com)の相場見解を記したものであり、三井住友信託銀行の見通しとは必ずしも一致しません。本ニュースのデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》